

平成26年度 島根県教育センター教育研究発表会のご案内

うらかな春から初夏の気配も感じるこの頃、皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
さて、当島根県教育センターでは、下記のとおり教育研究発表会を開催することにいたしました。多くの教職員の皆様にご参加いただき、これらの研究成果を教育実践の参考にしていただくとともに、私たちの研究等についてご意見とご感想を賜ることができれば幸いに存じます。
本年度は、当センターの研究だけでなく、島根大学大学院教育学研究科 現職教員1年短期実習コース修了生の発表もあります。
講演は秋田県検証改善委員会委員長として7年間秋田県の教育と学力についての研究を重ねておられる 秋田大学教育文化学部 教授 阿部 昇先生にお願いしました。体験コーナーや浜田教育センター研究発表の時間も設けており、例年以上に充実した内容となっております。
何かとご多用の折とは存じますが、万障お繰り合わせの上、多数ご来場くださいますようお願い申し上げます。

島根県教育センター 所長 春日 仁史

記

- 1 期 日 平成26年5月17日(土) 9:00～16:05
- 2 会 場 島根県教育センター 2階 講堂ほか (松江市内中原町255-1)
- 3 日 程
 - (1) 受付 8:40～9:00
 - (2) 開会式 9:00～9:10
 - (3) 研究発表 9:10～11:30

発表順	発表時間	研究主題	発表者	内 容
1	9:10～9:30	かかわり合い共に成長していく学級をめざして～小学校1年生に育む「かかわる力」～	平成25年度島根県教育センター長期研修員 松江市立内中原小学校 教諭 横田 ミチル	1年生の子どもたちに人と「かかわる力」を育むためには、子どもの内面に目を向け「心のエネルギー」を育むこと、学級で意図的に子ども同士がかかわり合える取組をすること、自分の気持ちを感じる、何より教師自身が人と「かかわる力」を高めるために自分を見つめていくことが大切であると考えた。
2	9:30～9:50	通常の学級における特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり～単元を貫く言語活動を位置付けた国語科の取組から～	平成25年度島根県教育センター特別支援教育研修生 雲南市立大東小学校 教諭 西 裕里	誰もが認められ、ともに学ぶ楽しさを味わうためにはどのような支援や指導の工夫が有効か、児童の実態把握をもとに、単元を貫く言語活動を位置付けた国語科の授業実践を通じて、通常の学級における特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりについて考えた。
3	9:50～10:10	鉄棒運動における「動きの言語化」を引き出す指導法のあり方	島根大学大学院教育学研究科 現職教員1年短期実習コース修了生 島根大学教育学部附属小学校 教諭 三島 康紀	小学校体育科における鉄棒運動の学習場面において、児童が運動のコツを自分の言葉で表現するための方法として、スポーツオノマトペを取り入れた支援の有効性を検証した。授業場面における運動の様子や児童の発言、学習カード・振り返りカードの記述を分析した。
4	10:20～11:20	平成25年度共同研究の概要発表		
		①授業改善に向けた教育センターの支援の在り方(2年次) ～「授業づくりの研修」で省察から自己課題化を図って授業改善につなげるために～ 企画・研修スタッフ 指導主事 鎌田真由美		昨年度の研究成果を受け、授業改善に必要な「省察」の意義やそれを高める要因等について明らかにするとともに、「授業力に関する自己診断シート」の活用から見えてきた受講者の課題を分析し、次年度以降の教育センター研修への活かし方について検討した。
		②授業改善に向けた教育センターの支援の在り方(2年次) ～「授業づくりの研修」の効果を上げる『授業づくりの研修ハンドブック』の作成～ 企画・研修スタッフ 指導主事 今田 寿夫		初任者・6年目・11年目それぞれの研修の「授業づくりの研修」で使用する『授業づくりの研修ハンドブック』作成に取り組んだ。年数回の「授業づくりの研修」を、受講者の授業改善につなげることがねらいである。研修の見通しや振り返りができ次年度の自己課題設定の契機となるハンドブックの作成を目指した。
		③授業改善に向けた教育センターの支援の在り方(2年次) ～「管理職による授業観察リーフレット」の作成～ 企画・研修スタッフ 指導主事 客野 智		個々の教員が主体的に授業改善をしていくことが重要であり、そのことを支えるための管理職による適切な指導・助言に関する調査研究である。授業改善を支えるものとして、管理職による授業観察の一助となる「授業観察のチェックリスト」を例示するとともに、「管理職による授業観察リーフレット」を作成した。
		④「教育の情報化」推進のための取組(2年次) ～校内研修パックの作成(ICT活用・情報モラル教育)を通して～ 研究・情報スタッフ 指導主事 周藤 紀之		ICT活用指導力の向上を目指し、1年次に作成した「ICT活用校内研修パック(プロトタイプ)」の見直しによる完成版の作成を行った。また、県内学校の情報モラル教育に関するアンケート調査等をもとに、情報モラル教育推進のための「情報モラル教育校内研修パック(プロトタイプ)」を作成し、3年次の完成版作成を目指す。
		⑤島根県のキャリア教育推進に関する一研究(1年次) ～しまねの子どもに育てたい力～ 浜田教育センター研究・研修スタッフ 企画幹 城市 博明		社会環境が激しく変化する中でキャリア教育の重要性が益々高まっている現在、島根県として統一感をもったキャリア教育の推進が求められる。そこで、県内教職員と児童生徒の実態を調査するとともに、本県におけるキャリア教育の推進について、目指す子ども像とその評価の在り方を中心に探った研究である。

(4) 体験コーナー 11:30～12:10

会 場	タ イ ト ル	担 当	内 容
本館2階 2-3研修室	授業づくり、研究についての 相談コーナー	企画・研修スタッフ	・授業力自己診断シートを体験してみよう ・授業づくり・研究についての情報交換をしてみよう
研究情報棟 第1PC室	ICT校内研修パックを 体験してみよう	研究・情報スタッフ	・校内研修パック「ICT活用(完成版)」 ・校内研修パック「情報モラル教育(プロトタイプ)」

(5) 研究発表 13:00～14:00

発表順	発表時間	研究主題	発表者	内 容
5	13:00～13:30	特別支援学級の指導の充実に向けて(3年次) ～実態調査と授業実践の提案～	教育相談スタッフ特別支援教育セッション 指導主事 中村 明子	特別支援学級の学習指導上の課題に対応した事例集の作成をめざした調査研究である。2年間の取組から導き出した自閉症・情緒障がい特別支援学級の授業づくりで大切にしたい4つの観点に基づいた授業実践を行い、その実践をとおして、障がいの特性に応じた授業づくりについての考察を行った。特別支援学級の授業づくりで大切にしたいことについてまとめた「授業実践ファイル」や「授業づくりリーフレット」の作成も行った。
6	13:30～14:00	学級集団づくりへの取組(2年次) ～「学級集団づくり魅力ガイドブック」の作成～	教育相談スタッフ相談セッション 指導主事 成相 和広	学級集団のもつ力、集団のもつ魅力、学級集団づくりの「やりがい」の部分を今一度とらえ直し、学級集団をつくるためのポイントを再考し、提案する。今年度は、「学級集団づくり魅力ガイドブック」を作成した。学級集団づくりのポイントを様々な視点で提案している。また、ガイドブックを使った校内研修の進め方、それに使うワークシート、学級担任のためのワークシートも作成した。

(6) 講 演 14:15～15:55

《詳細は、別紙をご覧ください。》

演題 秋田県の学力向上の秘密

～全国学力・学習状況調査6年連続トップクラスの要因～

講師 秋田大学教育文化学部 教授 阿部 昇 氏

(7) 閉会式 15:55～16:05

4 展 示 9:00～16:30 (研究情報棟・講義室)

《詳細は、別紙をご覧ください。》

島根県教育センター 2014 ICT体験・展示会

～授業に役立つICT機器やデジタルコンテンツを体験してみませんか～

5 その他

- (1) 参加申し込み、参加費等は必要ありません。(資料は当日準備いたします)
- (2) 昼食を注文することができます。(昼食受付8:40～10:00)
- (3) センター入り口正面の第2駐車場もご利用いただけます。本館駐車場と併せて約150台が駐車可能です。大型車は第2駐車場にお入れください。
- (4) 本発表会の参加をもって、初任者研修の校外自主研修及び教職経験11年目研修の校外における研修(選択研修:その他)とすることが可能です。

問い合わせ先: 〒690-0873 松江市内中原町255-1 島根県教育センター研究・情報スタッフ 安達利幸 TEL(0852)22-5873 E-mailアドレス: adachi-toshiyuki@pref.shimane.lg.jp